

平成26年度 第10回 緩和ケア講演会のご報告

今年度の第10回緩和ケア講演会は、3月12日に開催いたしました。出席人数は52名、うち、院内35名、院外17名でした。

今年度の年間テーマは「緩和ケアにおける各種スキル ～地域における各職種のプロに学ぶ～」です。第10回目の今回は「意思決定に悩むがん患者・家族への支援 ～診断期から終末期まで～」というテーマで小牧市民病院 緩和ケア科の渡邊紘章先生にご講演いただきました。

アンケートでの質問について、渡邊先生にお答えいただきましたので、コメントを添えさせていただきます。

ご質問・ご意見とそのコメント

“緩和ケア=ホスピス”のイメージが拭えない場合、誰がどのような言葉で理解を求めていますか？

がん治療医や治療にたずさわるスタッフからの説明で理解が得られない場合には、当院では緩和ケアについての情報提供を緩和ケアスタッフが行っていきます。直接関わる緩和ケアスタッフと会い、話を聞くことで、緩和ケアが何をしてくれるのかというイメージがつくことが多いです。

どのような形でボランティアを養成していますか？

当院では年1回、3時間講習を2日間実施して、全てを修了した方を緩和ケア病棟ボランティアとして登録しています。講義内容は病院幹部からの理念の説明、緩和ケア病棟師長からの病棟の理念の説明、医師からの緩和ケアに関する説明、心理士からのコミュニケーションに関する説明、ボランティアコーディネーターからのボランティアについての説明などです。最終的には全員の方を緩和ケア病棟スタッフ（医師、病棟師長、心理士、ボランティアコーディネーター）が個別面談を行い意思確認を行っています。

ご質問・ご意見ありがとうございました。今後もしどしご意見をお寄せ下さい。

地方独立行政法人 岐阜県立多治見病院

地域医療連携センター FAX：0572-22-7948 緩和ケア内科 Mail: kanwa@tajimi-hospital.jp